

平成 23 年 10 月 3 日

電気通信システム委員会事務局

今後の ITU-T における我が国の標準化活動の検討について

1. 検討の趣旨

電気通信システム委員会は、ITU-T の全ての SG 及び TSAG への対処について審議する場として設置されており、ITU-T 全体を俯瞰した政策的な検討を行うことが期待されている。

また、平成 24 年 11 月には世界電気通信標準化総会（WTSA-12）の開催が予定されており、我が国の対処方針の策定に向けて基本的な考え方を整理しておく必要がある。

そのため、電気通信システム委員会において、WTSA-12 への対処方針の審議に向けた準備を行うことを目的として、今後の ITU-T における我が国の標準化活動について政策的な観点から検討を行う。

なお、本検討に当たっては、現在進められている「情報通信分野における標準化政策検討委員会」の検討や標準化政策に関するこれまでの検討結果を適切に踏まえることとする。

2. 検討事項案

以下の検討事項案をもとに検討するが、委員会の議論を踏まえて必要に応じ修正する。

○ITU-T における標準化の特徴を踏まえた我が国としての活動

- ITU-T における標準化活動に関する我が国としての中長期的な重点分野
- 途上国を含むグローバルな観点を活かした我が国の活動

○ITU-T における分野横断的な技術の標準化に対する我が国の対応

- IoT、M2M 等の標準化に対する我が国の対応

○ITU-T の今研究会期の活動結果から抽出される課題への対応

- ITU-T の検討体制（国内のアップストリーム活動を含む）のあり方

各回、上記の検討事項から 1～2 つを取り上げ、意見交換を行う。会議の間には構成員へのヒアリングを実施し、検討に反映する。

3. 検討成果の活用

検討成果は、平成 24 年秋頃に予定されている WTSA-12 への対処方針の審議に活用する。

標準化政策の意義

「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方」をもとに作成

■ 消費者・利用者の選択肢の拡大、安全確保

- 多様な事業者の参入が促進され、製品・サービスコストが低廉化される
- 製品やサービスの安全性等の基準がオープン化され、判断材料が提供される

■ 市場規模の拡大、競争力の強化

- 同一の標準を採用する国や企業が増加し、グローバルな市場が創出・拡大
- グローバル市場における影響力の確保、製造コストや調達コストの低減

【論点】

- 国際的観点からは、標準化を通じた国際社会への貢献も意義といえるのではないか
(例1) 東日本大震災から得られた災害に強いネットワークの標準化
(例2) 環境に配慮したICTの標準化
- 国際標準化により生じうる負の面として、以下のような点にも留意が必要ではないか
(例1) 国内市場がグローバル市場とつながることによる海外企業の影響力の拡大
(例2) 国際標準化することによるサイバーセキュリティ上の新たな脅威の出現

国際標準の比較例

「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方」をもとに作成

	ITU-T勧告 (デジュール標準)	ETSI標準 (地域標準)	IEEE規格 (フォーラム標準)
検討主体	各国の主管庁	欧州の主管庁、民間企業	民間の個人・法人
合意形成	原則として全会一致	一定以上の賛意	一定以上の賛意
策定に要する期間	長い傾向	短い傾向	短い傾向
適用範囲	グローバル	主に欧州	主に先進国
その他の特徴	<ul style="list-style-type: none">デジュール標準がフォーラム標準を追認する事例も見られるデジュール標準はWTO/TBT協定※に基づく国際貿易において重要		

※WTO加盟国に対し、各国の規制等で用いられる強制規格や任意規格を『国際規格』に整合させるよう義務付け

【論点】

- 地域標準やフォーラム標準と比較してITU-Tにおいて標準化することの利点は何か
(例1) 条約に基づく国際機関として、公平・公正な仕組みの下での検討が確保される
(例2) デジュール標準であるため、中長期的に使われることが多い
(例3) グローバル標準であるため、途上国への普及に適している
- 地域標準やフォーラム標準と比較してITU-Tにおいて標準化することの課題は何か
(例) 合意形成は原則として全会一致で行われるため、急速な技術の進展に迅速に対応しにくい

ITU-Tにおける標準化の特徴

ITU-Tは、公平・公正な仕組みの下で、中長期的な視野を持ち、途上国を含むグローバルな観点から標準化活動を展開するのに適している

(一方、地域標準やフォーラム標準と比較して急速な技術の進展への迅速な対応が課題)

国際標準化の意義に貢献

市場規模の拡大、競争力の強化

国際社会への貢献

消費者・利用者の選択肢の拡大、安全確保

【今後の論点】 (国際標準化によって生じる負の面にも留意して検討を行う)

□ ITU-Tにおける標準化の特徴を踏まえた我が国としての活動

- ITU-Tにおける標準化活動に関する我が国としての中長期的な重点分野
- 途上国を含むグローバルな観点を活かした我が国の活動

□ ITU-Tにおける分野横断的な技術の標準化への対応

- IoT、M2M等の標準化に対する我が国の対応

□ ITU-Tの今研究会期の活動結果から抽出される課題への対応

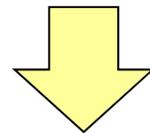
- ITU-Tの検討体制(国内のアップストリーム活動を含む)のあり方

今後の検討の進め方

2011年10月(今回)

- 国際標準化の意義
- ITU-Tにおける標準化の特徴

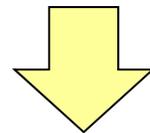
2011.12~2012.4頃



構成員へのヒアリング

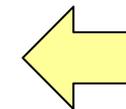
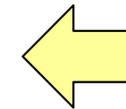
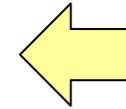
- ITU-Tにおける標準化の特徴を踏まえた我が国としての活動
- ITU-Tにおける分野横断的な技術の標準化への対応

2012.4~2012.7頃



構成員へのヒアリング

- ITU-Tの今研究会期の活動結果から抽出される課題への対応



■ 標準化政策に関するこれまでの検討結果
（「標準化政策検討委員会」の検討を含む）
■ ITUの各種会議における決議・勧告